

島根原発再稼働認めない！署名大行動キックオフ集会

—— 島根原発再稼働をめぐる現状と対応 ——

1 住民は島根原発再稼働をどう考えているか

2015年6月 島根大学による松江市民へのアンケート結果

- ・2号機を再稼働すべきか： 全く思わない・あまり思わないとの回答 38.3%
- ・3号機について〃 : 全く思わない・あまり思わないとの回答 41.9%
- どちらともいえないとの回答 30%
- ・再稼働を住民投票で決めるべき：ややそう思う・非常にそう思う 55.6%
- ・不安に感じるとの回答 64.7%

市民は迷いながらも原発の存在に不安を感じ、再稼働の是非が行政によって勝手に決められていくことに強い不満を持っていると感じることができる。

2 現実には、私たちの町は少しも安全が保障されていない

① 原子力規制委員会委員長・安倍政権の責任逃れのことば。松江市長の姿勢

- ・田中原子力規制委員会委員長

原発が規制基準に適合しているかを審査するが、原発の安全性について審査しているわけではない＝「安全審査」を否定

- ・安倍政権

規制委員会が再稼働に求められる安全性を確認した原発は再稼働を進める

- ・松江市長

「安全性の確保を前提として当分の間、原発は必要だ」と言う。安全性の確保とは、規制委員会の審査に合格すること。

② 適合性審査で問われる安全性と不問にされる安全性、

- ・宍道活断層の西側3kmだけを延長させ、東側調査に対する疑問を不問にする。そして、鳥取沖断層との連動を否定。

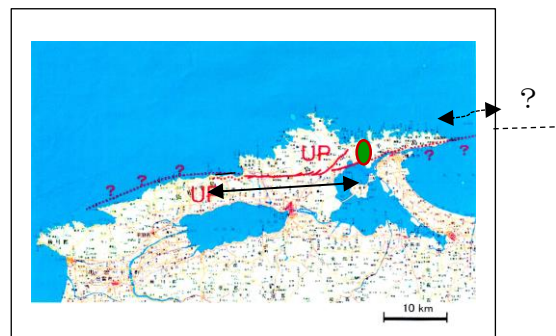
現在の宍道活断層評価 22km→25km


基準地震動→800ガルへ変更。

東端を変更せず。

- *地震調査研究推進本部は7月1日、中国地方の活断層を評価し、地域ごとに今後30年以内にマグニチュード(M)6.8以上の地震が起こる確率を公表。

鳥取市や松江市を含む北部で40%の確率。



- ・地震動の過小評価手法 →前規制委員会委員長代理の島崎氏による指摘を却下
島崎氏の指摘概要  指摘は、島根の活断層にも当てはまる！

原子力発電の耐震設計では、過去発生した地震と調査で確認した活断層から将来起きる地震の大きさを求め、それらの地震から基準地震動を決め、それに耐えられるように設計する。その基準地震動を決めるときに用いられる手法では、横ずれ断層の場合には過小評価になる。熊本の地震で実証された。

- ・審査の場で堂々と安全性軽視の説明
新基準に適合するためには 1000 か所の追加耐震補強工事が必要となる。
→耐震重要度分類 B クラスの設備を C クラスに変更。(補強工事をしない！)
規制から言われたことは
「事故発生防止を緩めていいと言うなら原発の運転を止めてください」

3 残り続ける使用済み核燃料の危険性

1 トンの使用済み核燃料に含まれる放射性物質は、10 万年後においても、宍道湖全体の水で希釈しても飲むことができないほどの毒性を保ったまま。

島根原発にある使用済み核燃料 2678 体(1号機:722 体)≒750t

核燃料サイクルの行き詰まり=再稼働は島根を核のゴミ置き場にする?

今、私たちに問われているのは、これ以上、核のゴミを作らないこと

4 最後の砦「広域避難計画」は住民の安全を守らない

- ・高すぎる避難基準は住民の被ばくを前提にしている
- ・現在の避難基準では、段階的避難は実効性がない
- ・避難支援のための車両が足りない。バス運転手の確保はできるのか?
- ・福祉施設、病院、在宅要支援住民のための避難支援は困難。
若い職員に高い放射線量の中を緊急出勤要請ができるのか?
- ・高いスクリーニング基準では、住民は自らが汚染されていることに気が付かないままに避難先に避難することに
- ・原発事故であるがために、移住せざるを得ない
- ・長期にわたる広域避難は PTSD を発症する危険性あり

住民の安全が守れない広域避難計画の問題について、島根県と松江市に二度にわたって公開質問を提出。再稼働してはならないことを明らかにします！

これらの問題が解決されない限り、決して島根原発の再稼働を認めない
多くの県民、そして全国の人々の圧倒的な再稼働 NO の声を示したい
あなたの署名で再稼働止めよう！